

可動式防煙垂れ壁

オマウオールYH型・VH型・H型

OMATA
OMATA

シンプルな納まり、
少ない格納スペース、
火災時には瞬時にして防煙垂れ壁に。

オマウォールの特長

- 簡単な操作方法で防煙壁の降下・巻上げができます。
- 独自の機構により、少ない天井内格納スペースで設置できます。
- 大型スパンも可能です。
- YH型を使用しますと納まりがとてもシンプルになります。
- 操作方法は基本的に手動式ですが、電動式のご依頼にもお応えします。

※防煙壁(不燃織布)の色は、グレーとします。

巻取型の防煙壁(不燃織布)は、

大型スパン可能。

YH型 標準タイプ

巻取型 レール固定式

防災性能評定BCJ<防災>95(変1)

■概要

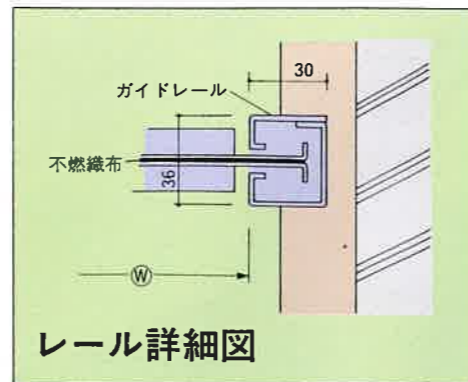
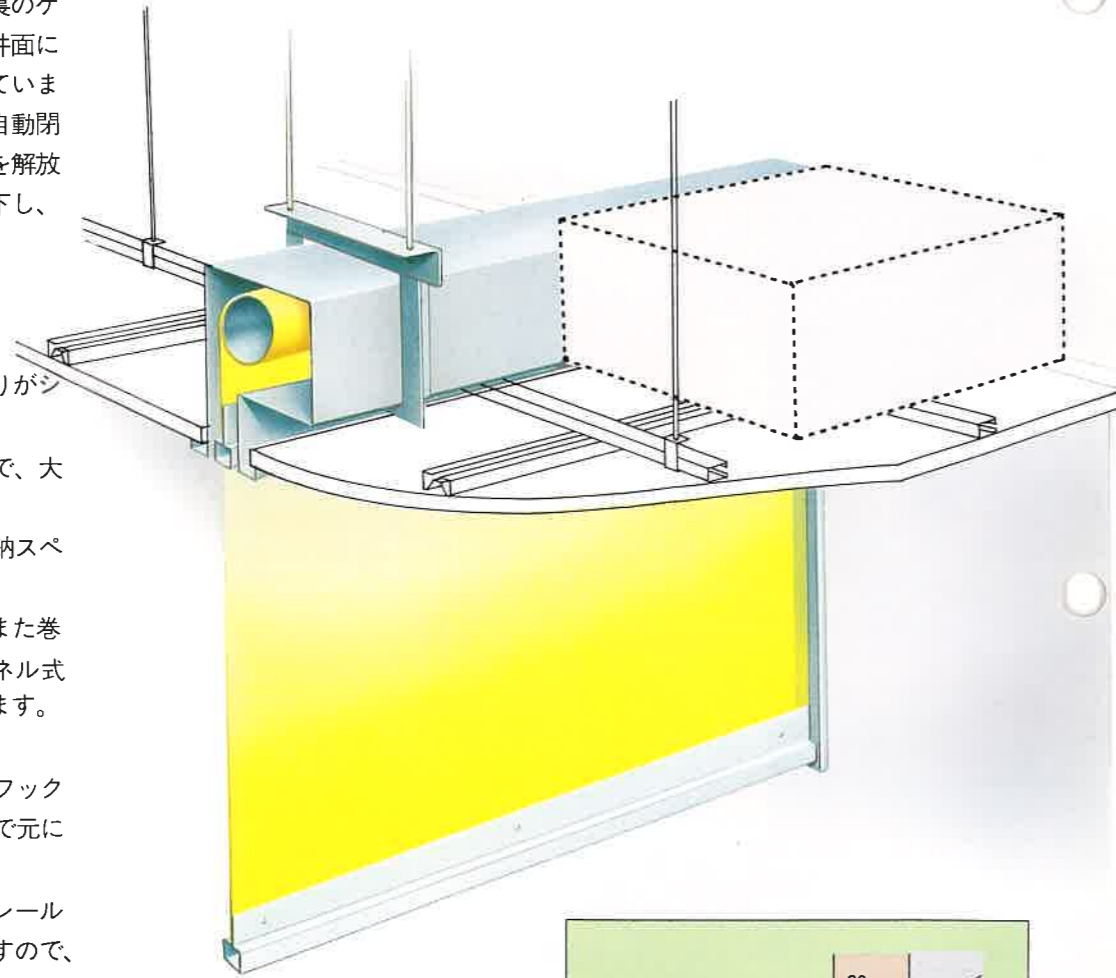
この防煙垂れ壁は、防煙壁となる不燃織布(不燃(個)第1399、同第1445号)を一本の軸に巻取り、通常は天井裏のケース内に格納してあります。天井面には、まぐさ、座板だけが露出しています。煙感知器からの信号により自動閉鎖装置が開閉機のブレーキ機構を解放し、ガバナーで调速され垂直降下し、防煙壁を形成します。

■特長

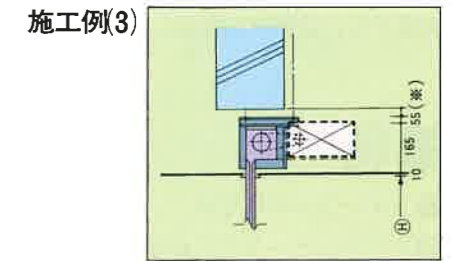
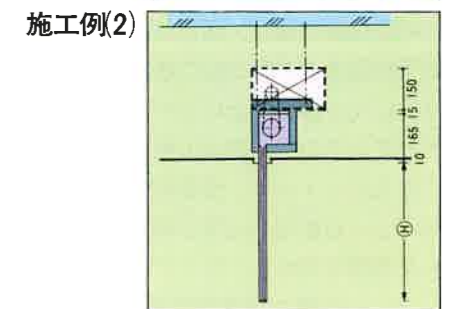
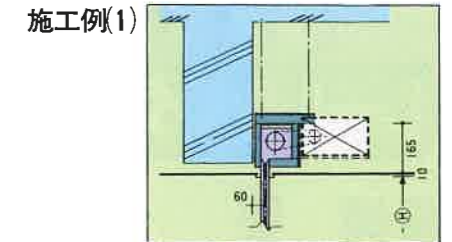
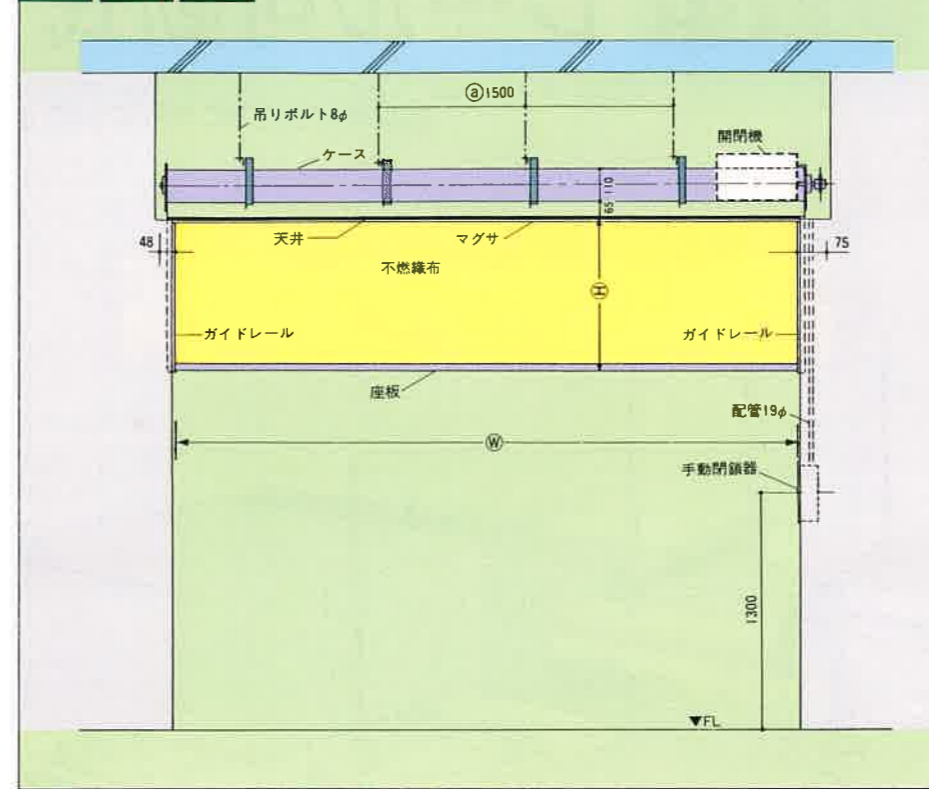
- 1 天井面の座板とまぐさの納まりがシンプルです。
- 2 一本の軸に防煙壁を巻取るので、大型スパンも可能です。
- 3 大型スパンでも、天井裏の格納スペースは小さくできています。
- 4 防煙壁に不燃織布を使用し、また巻取り式ですので、スチールパネル式と比較すると軽量化されています。
- 5 降下した防煙壁は、巻上げ用フックを反復けん引する簡単な操作で元に戻ります。
- 6 座板の端部を折曲げてガイドレールとかみ合う形状になっていますので、圧力差 $2\text{kg}/\text{m}^2$ でも外れることはありません。

※納まりによってケース上端に開閉機を取り付けることもできます。

次頁(施工例(2))

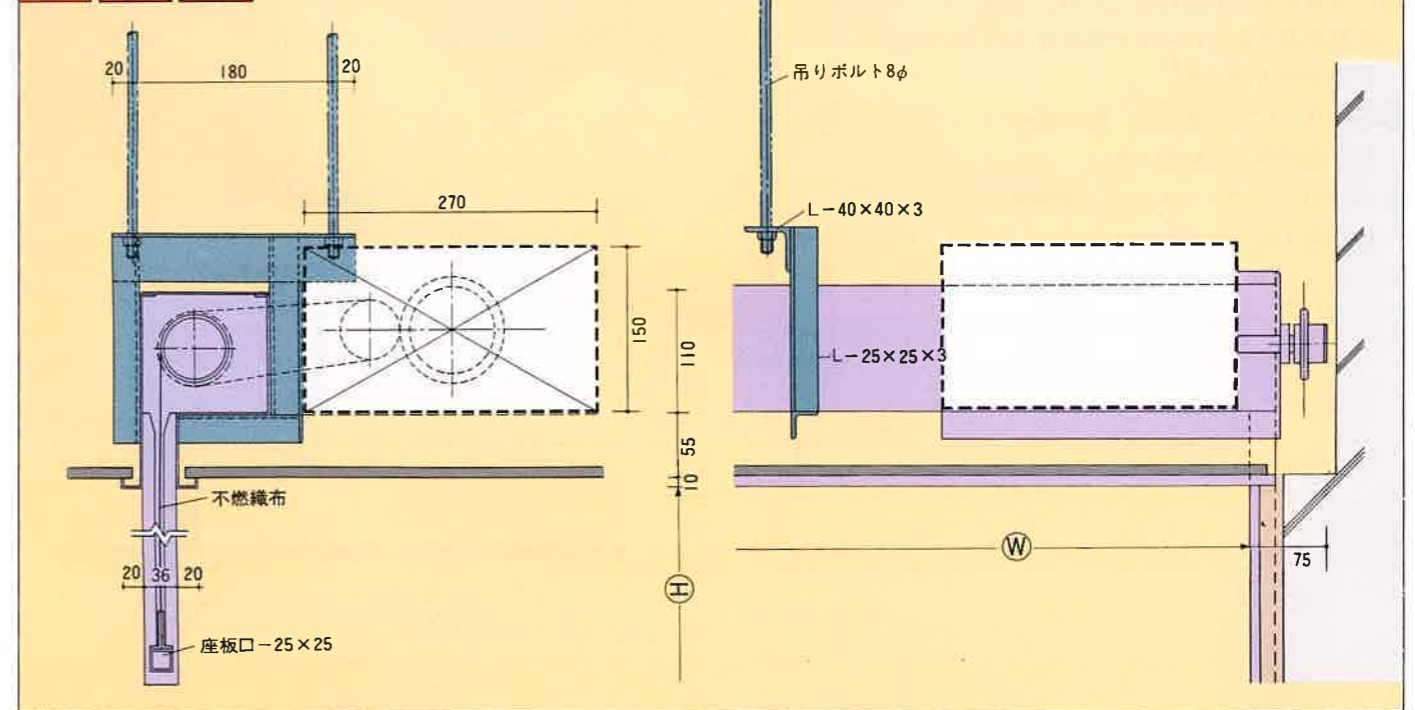


一般図



※逃げ寸法

詳細図



レールをケース内に収納出来るま

す。

YH-R型 レール回転タイプ

巻取型 レール可動式

防災性能評定BCJK(防災)187(変1)

概要

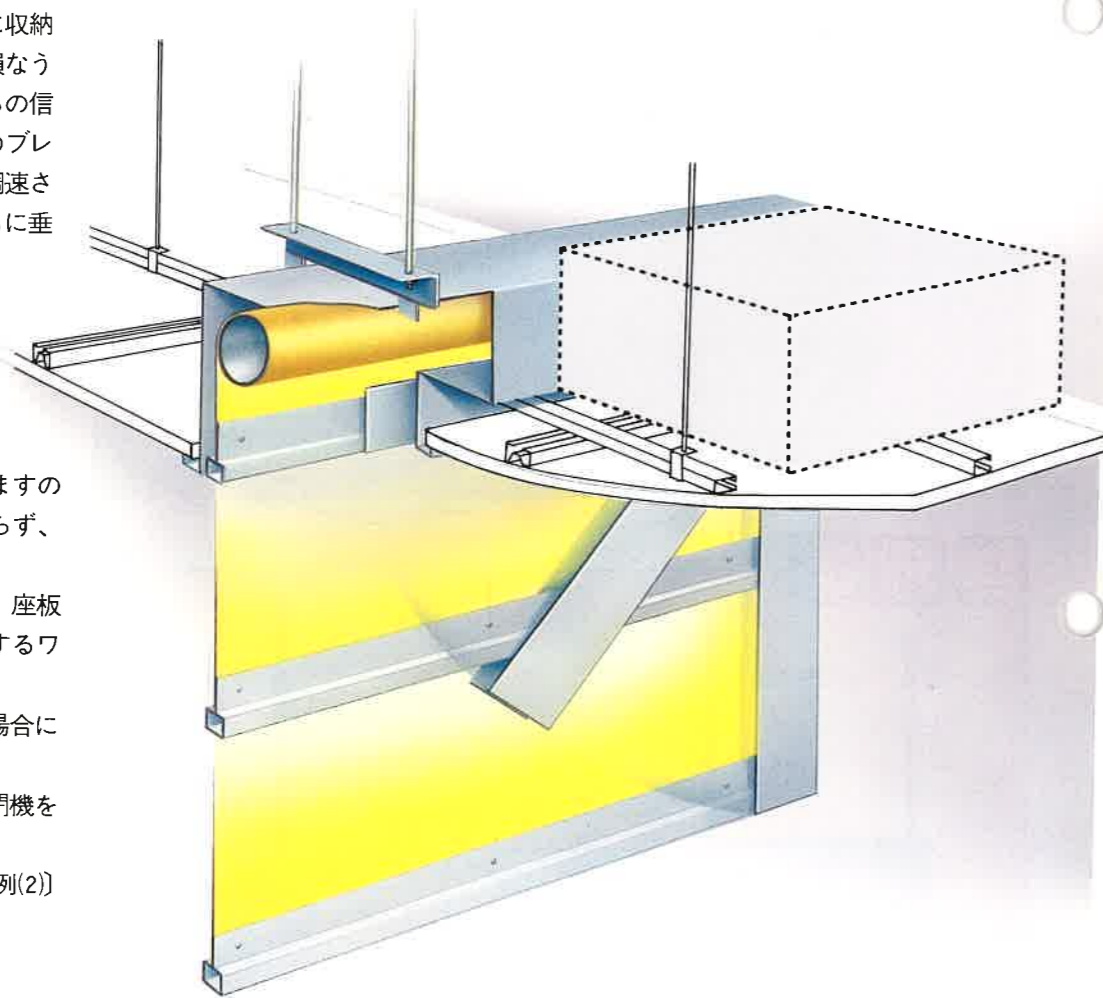
この防煙垂れ壁は、通常は防煙壁となる不燃織布が一本の軸に巻取られており、レール部も完全にケース内に収納されているので、壁面の美観を損なうこともありません。煙感知器からの信号により自動閉鎖装置が開閉機のブレーキ機構を解放し、ガバナーで调速され、レール部の90°回転降下とともに垂直降下し、防煙壁を形成します。

特長

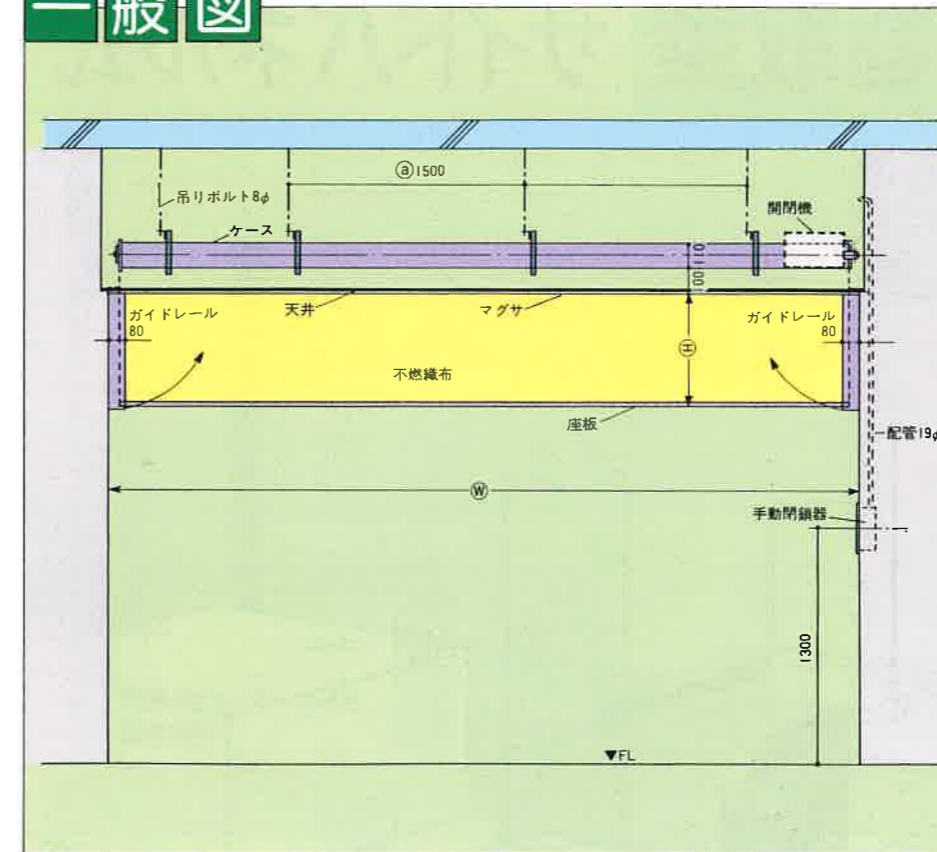
- ① ソデ寸法が不要です。
- ② レールがケース内に収納されるので、壁または柱にレールが残らず、とてもシンプルです。
- ③ 防煙壁の降下および巻上げは、座板の動きとともにレールが作動するワンタッチ方式です。
- ④ 石貼り、打放し等の柱、壁の場合に効果を発揮する機構です。

※ 納まりによってケース上端に開閉機を取り付けることもできます。

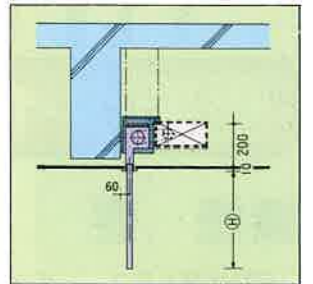
次頁(施工例(2))



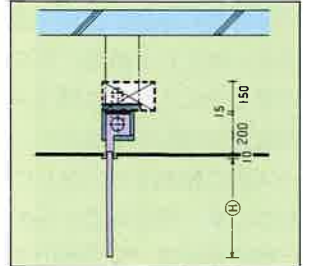
一般図



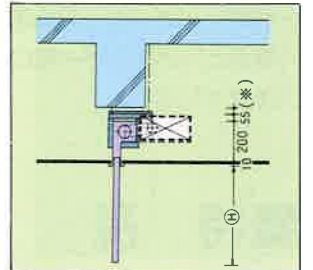
施工例(1)



施工例(2)

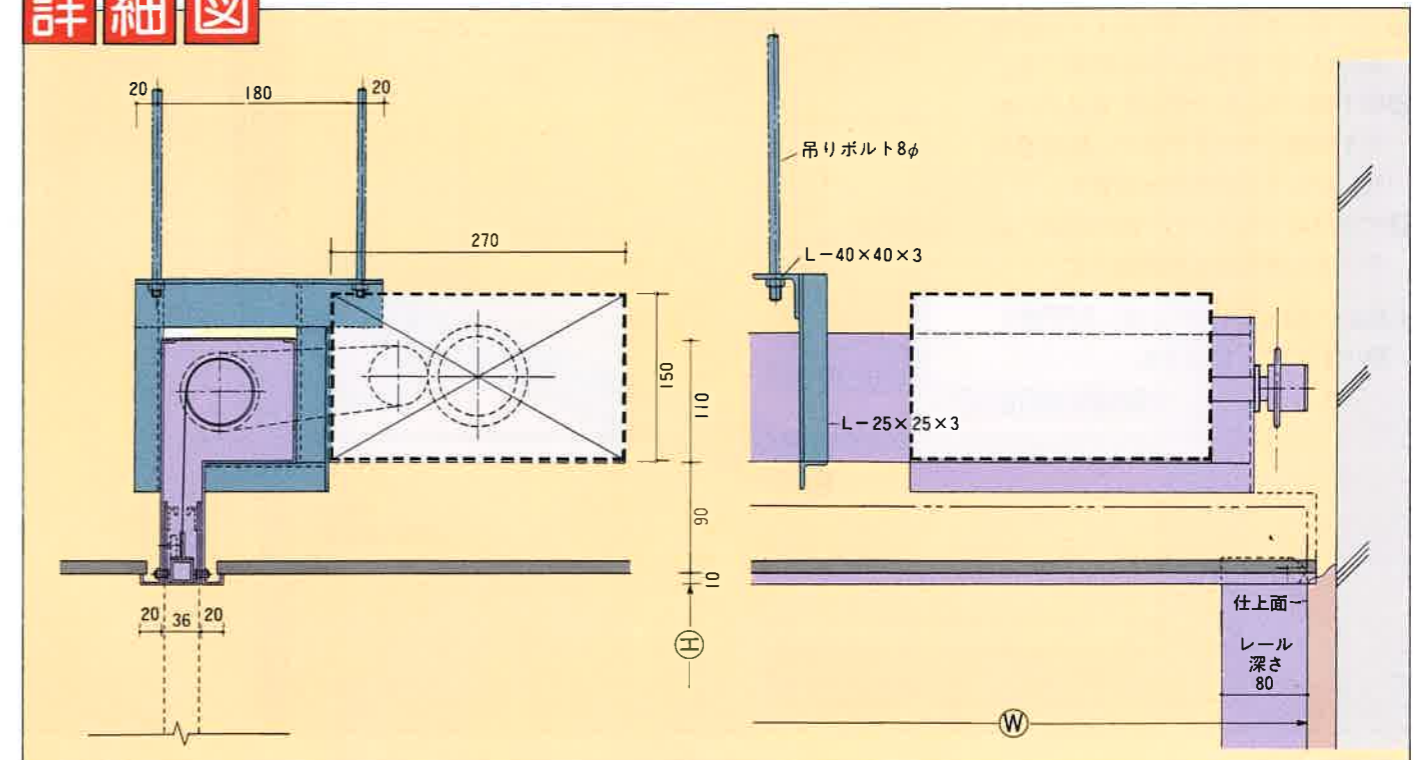


施工例(3)



※ 逃げ寸法

詳細図



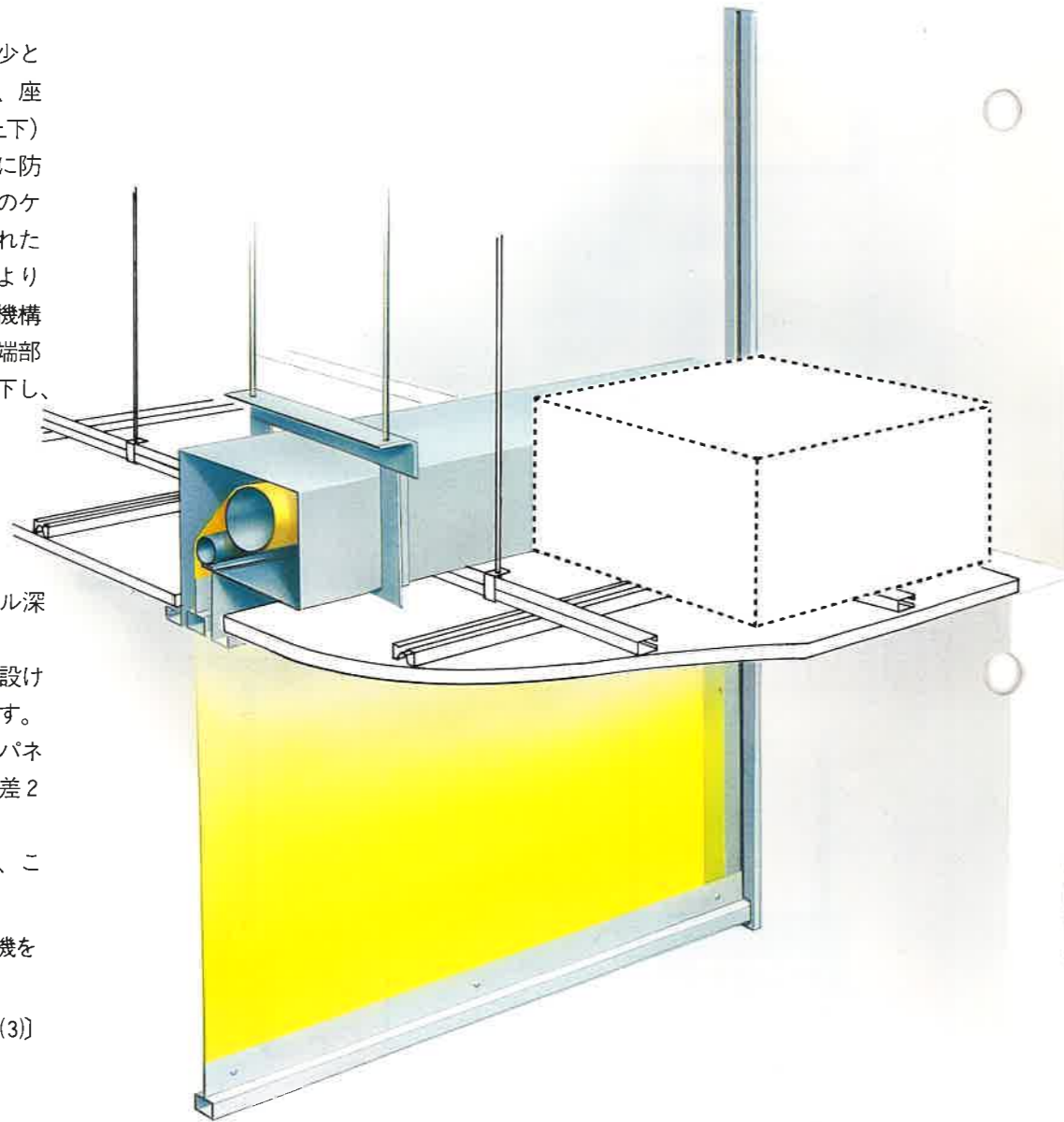
サイドパネルを使用する事により、 設置できます。

YH-V型 垂直タイプ

巻取型 サイドパネル式

■概要

この防煙垂れ壁は、ソデ寸法を最少と
するために端部に鋼板を取り付け、座
板と一体化し、垂直にスライド(上下)
させる方式をYH機構〔一本の軸に防
煙壁(不燃織布)を巻取り、天井裏のケ
ース内に格納している〕に取り入れた
ものです。煙感知器からの信号により
自動閉鎖装置が開閉機のブレーキ機構
を解放し、ガバナーで调速され、端部
の鋼板と不燃織布と一緒に垂直降下し、
防煙壁を形成します。



■特長

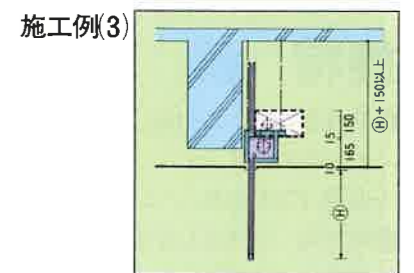
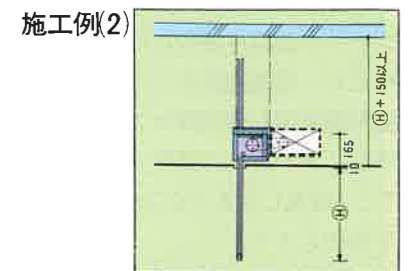
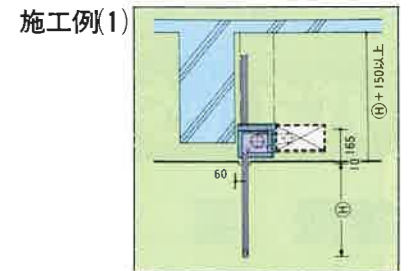
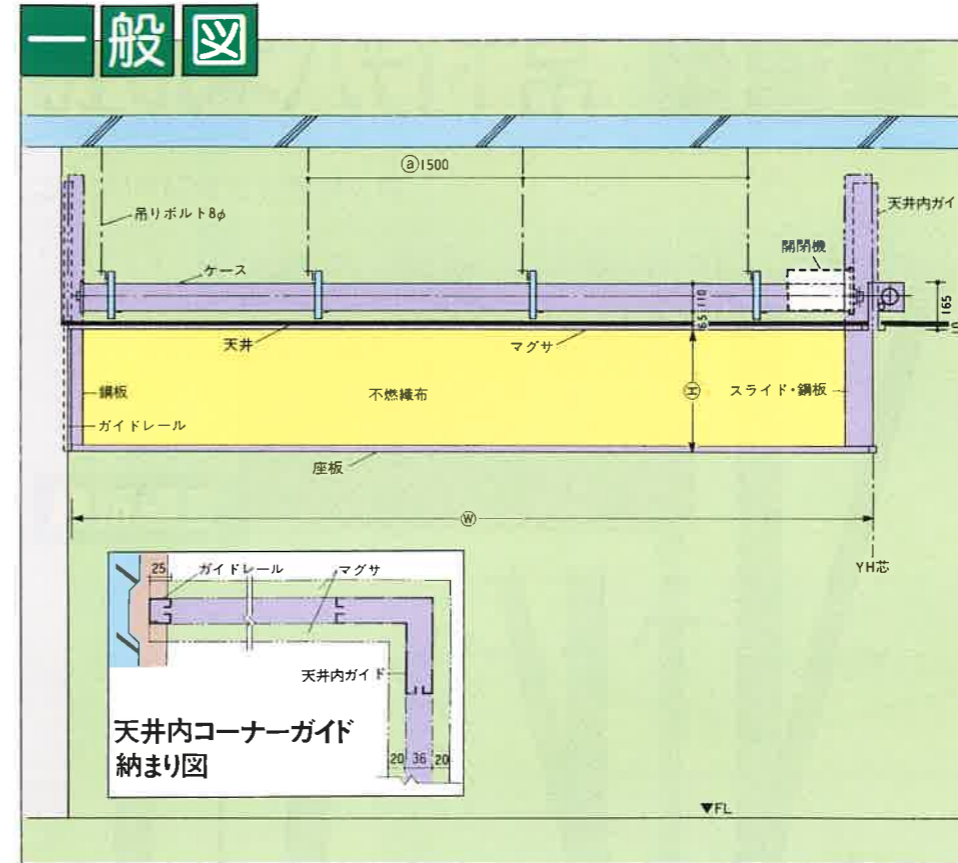
- ① サイドパネル使用により、レール深
さ25%にて設置できます。
- ② コーナー部分は天井内ガイドを設け
るだけで、固定レールは不要です。
- ③ 降下時には、かみ合ったサイドパ
ネルを使用していますので、圧力差2
kg/m²にも充分耐えられます。
- ④ 吹抜け廻りのコーナー部分には、こ
のパネル併用方式が最適です。

※ 納まりによってケース上端に開閉機を
取り付けすることもできます。

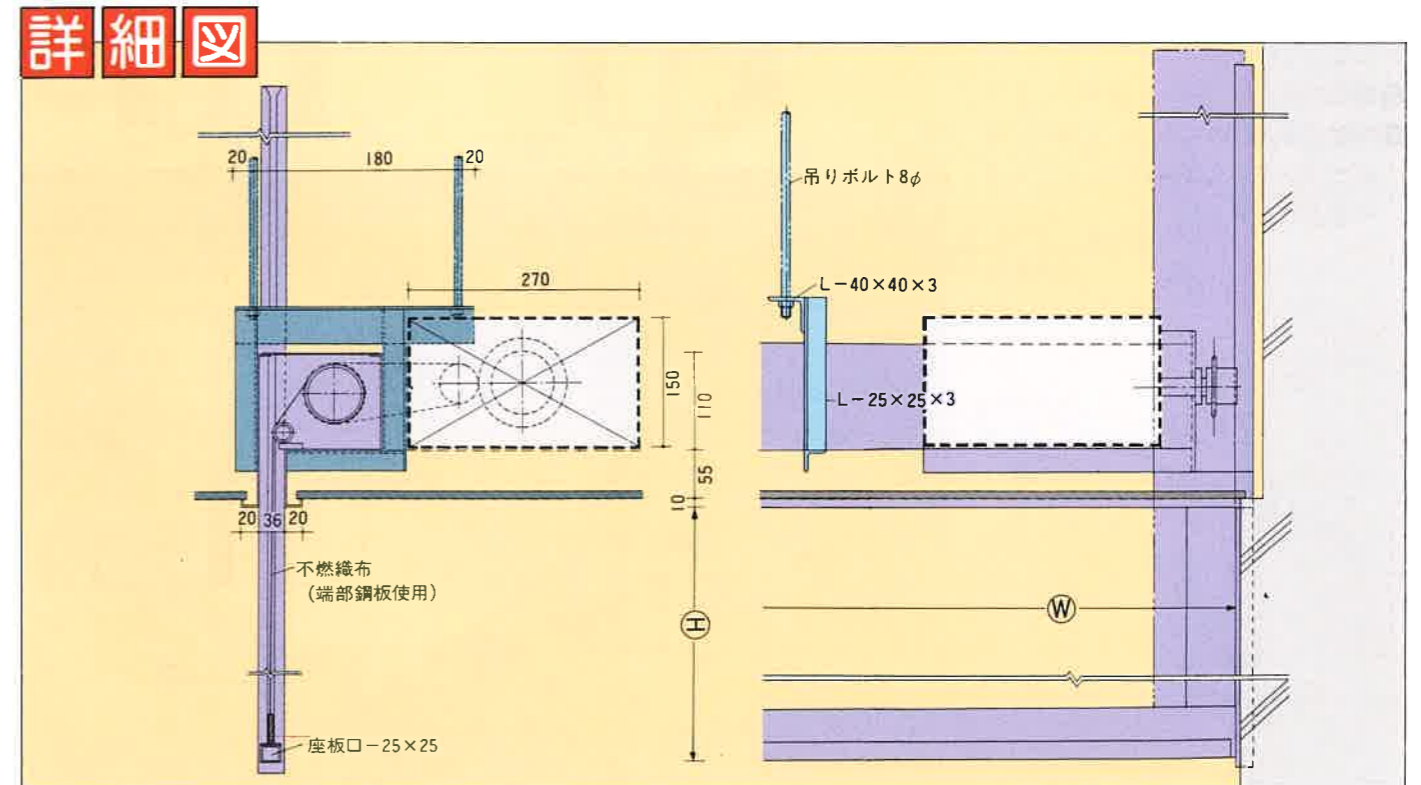
次頁〔施工例(3)〕

躯体を傷めることなく

一般図



詳細図



曲線(円形)区画部分に最適!

VH型 パネルタイプ

垂直型 吊下げパネル式

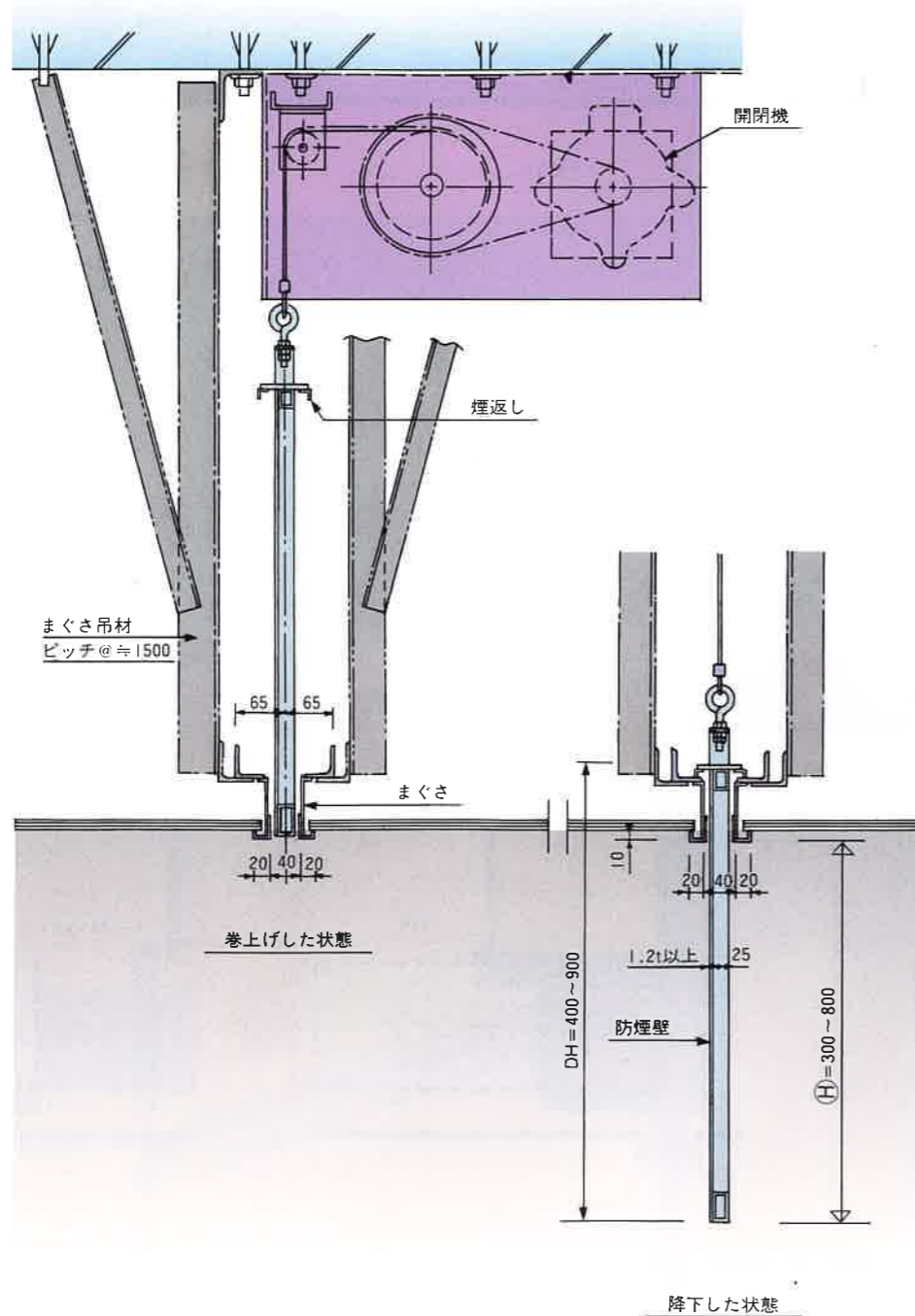
防災性能評定BCJ<防災>922

■概要

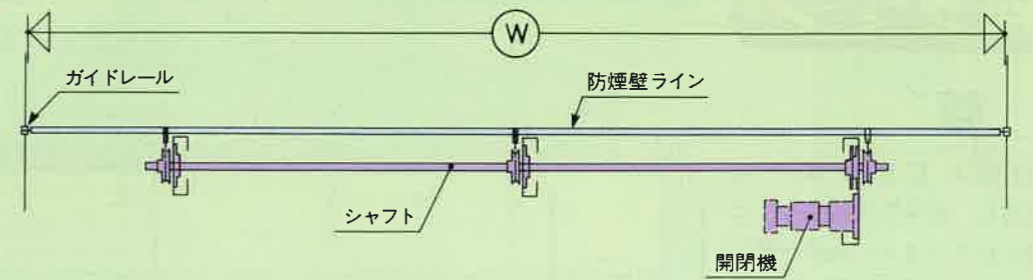
この防煙垂れ壁は、角型鋼管の骨組にスチール鋼板を溶接したパネルを防煙壁とし、煙感知器からの信号により自動閉鎖装置が開閉機のブレーキ機構を解放し、ガバナーで調整されて垂直降下し、(煙返しがまくさで停止し)防煙壁を形成します。

■特長

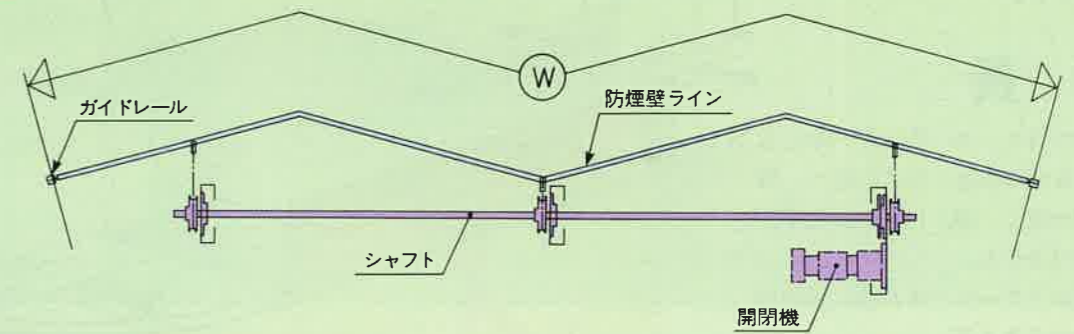
- 防煙壁がパネルの為、区画に添った形が可能です。
曲線、円形、波形、ノコギリ形、扇形
- 降下時には煙返しがまくさで停止し、密着して安定した遮煙性能を確保し、風圧をうけても十分耐えられる構造になっています。
- 電動式巻上げ(復帰)を基本とします。
- 手動式巻上げの場合は、天井内に納めたハンドル又は手動チェーンにより巻上げます。



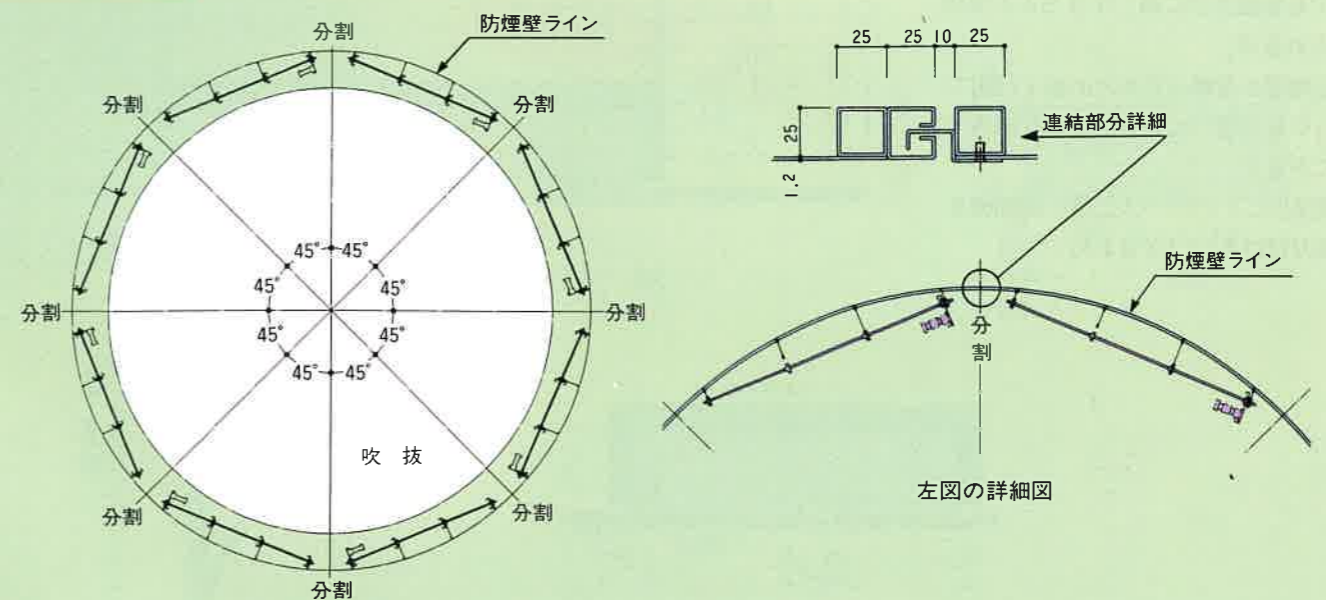
■直線型



■折線型



■曲線型



回転型の防煙壁(スチールパネル)

H型 回転タイプ

回転型 スチールパネル式

防災性能評定BCJ<防災>849

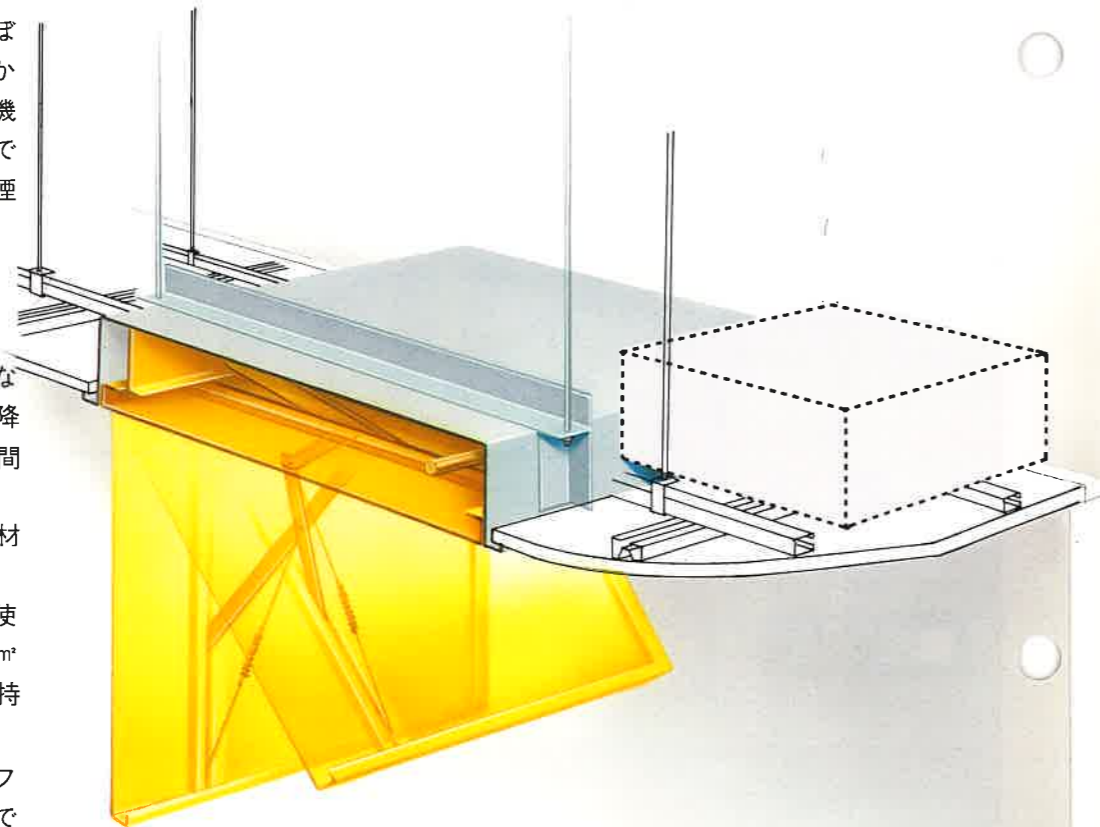
■概要

この防煙垂れ壁は、防煙壁にスチールパネルを使用し、通常は天井面とほぼ同面に格納されています。煙感知器からの信号により自動閉鎖装置が開閉機のブレーキ機構を解放し、ガバナーで调速され、90°回転降下し、垂直な防煙壁を形成します。

■特長

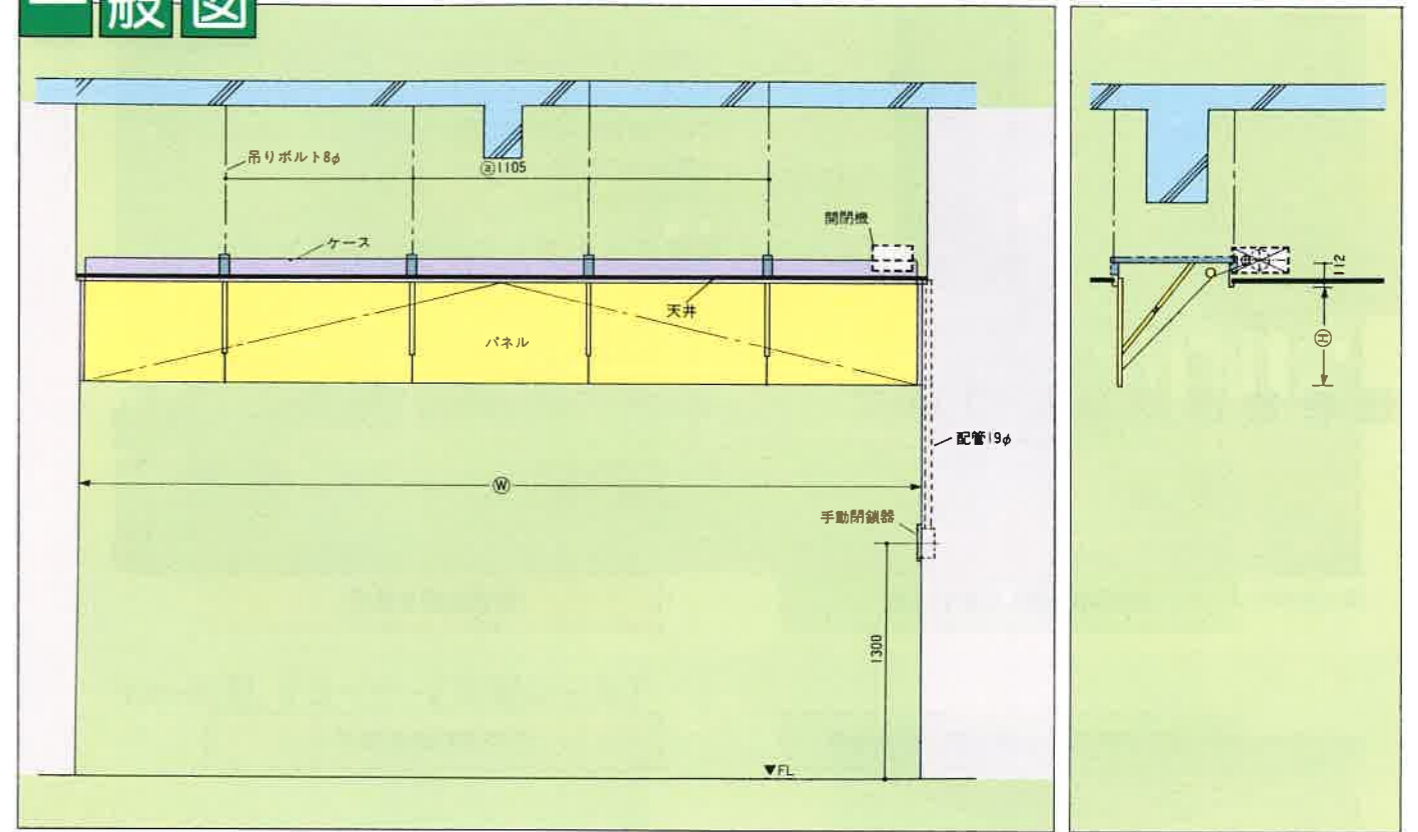
- ① 防煙壁のスチールパネルが一体となっているため順送り方式に比べ、降下時間が短く、巻上げ格納にも手間がかかりません。
- ② 防煙壁のスチールパネル面に天井材の貼付ができます。
- ③ 防煙壁に垂直保持装置(アーム)を使用していますので、圧力差 $2\text{kg}/\text{m}^2$ でも垂直並びに通りがきちんと保持されます。
- ④ 防煙壁の復帰は天井内の巻上げ用フックを反復けん引する簡単な操作でできます。

※納まりによってケース上端に開閉機を取り付けることもできます。

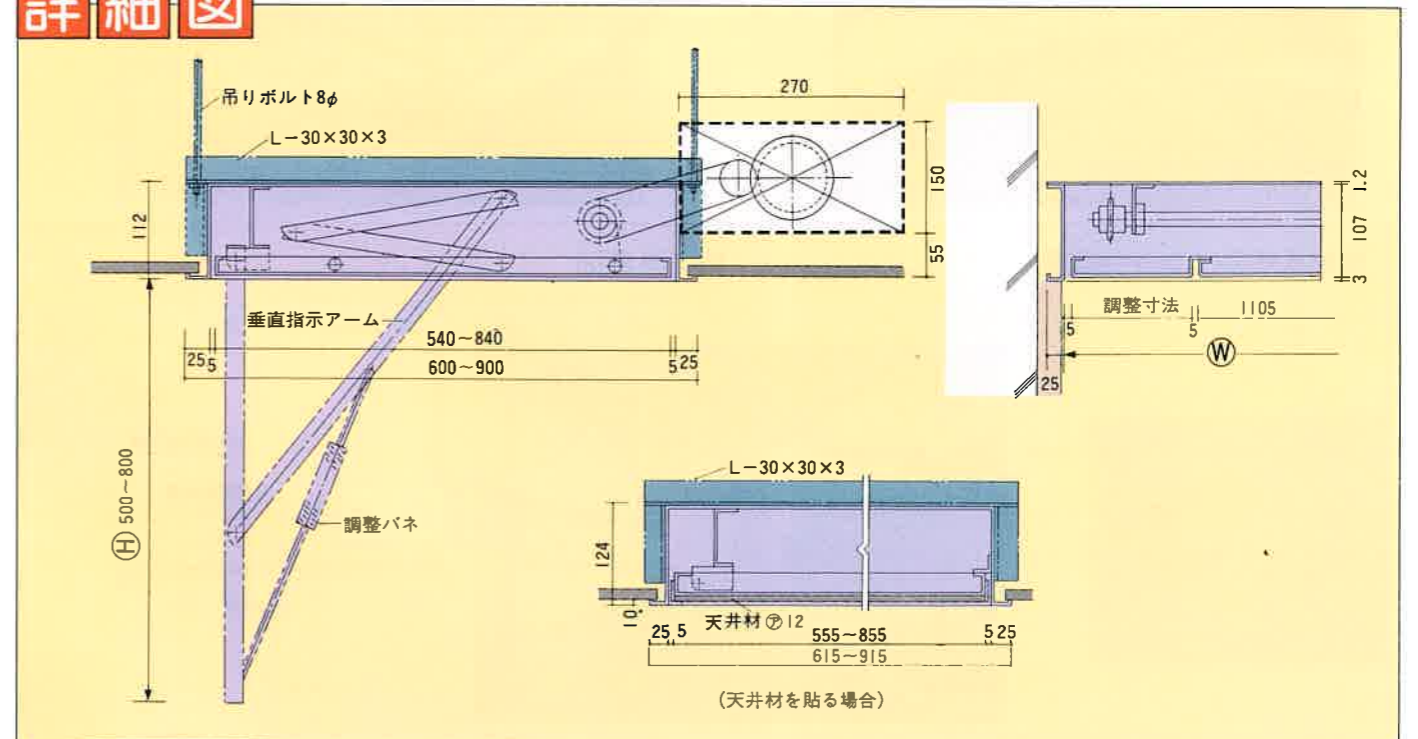


は天井材組込みも可能。

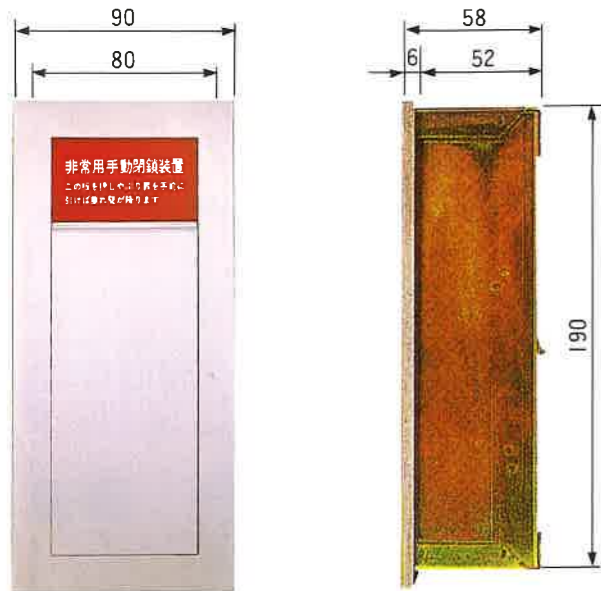
一般図



詳細図



降下、巻上げ操作について



降下

1. 手動閉鎖装置の赤色アクリル板を手で押し破って下さい。
2. レバーを手前に引き、ロックして下さい。防煙垂れ壁は自動降下します。

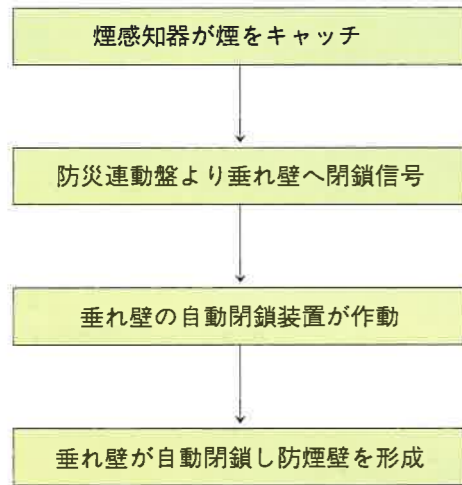
巻上げ

1. 閉鎖時に引き出したロックレバーを元に戻して下さい。
2. 天井面もしくは天井点検口を開け、機械に設置されている青色フックを反復けん引すると、防煙垂れ壁は天井内に収納されます。

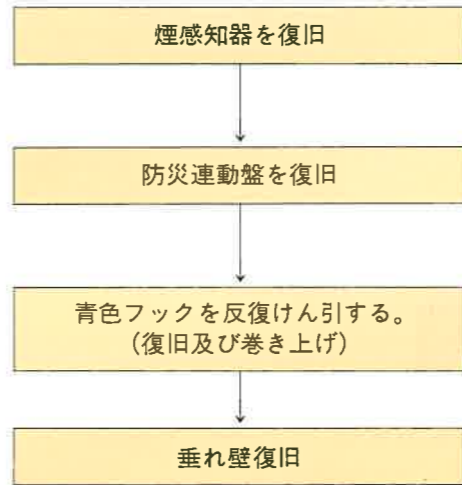
※電動式も出来ますのでご相談下さい。

煙感知器連動について

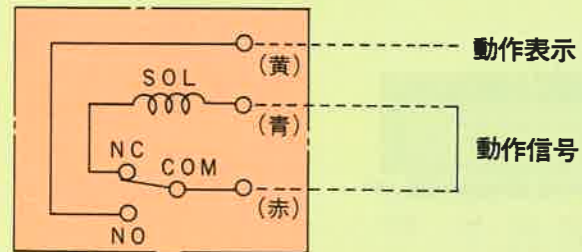
作動



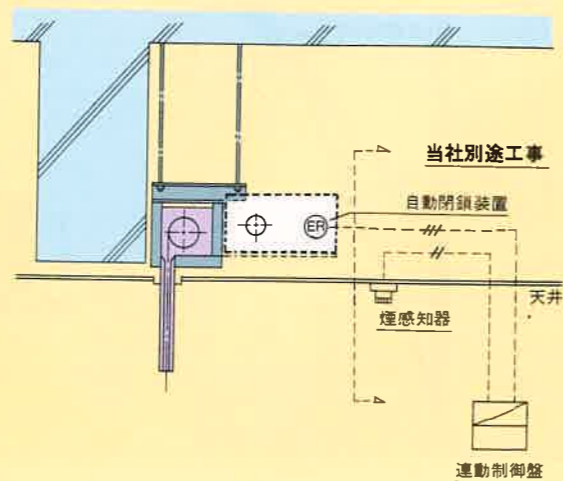
復旧



電気系統図<自動閉鎖装置>



防災系統図

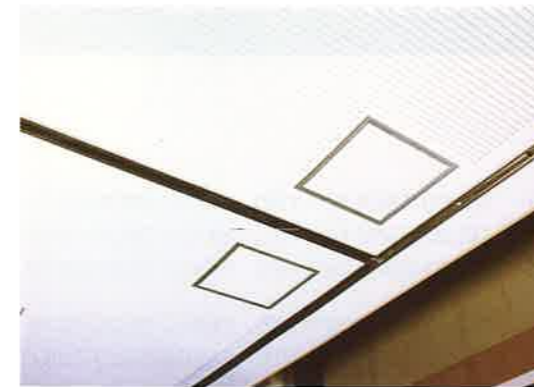


オマウォールYH型設置例



YH-R型、VH型を組合せた吹抜けの防煙垂れ壁

YH-R型 Tコーナー(可動レール)



作動前(通常時)



作動後



作動中